



『栄養チューブ閉塞時の安全な対応』

<事例1> 閉塞した栄養チューブに圧力を加えてフラッシュを行った結果、とおりがスムーズになったので栄養剤を注入した。その後患者の鼻腔から栄養剤が漏れているのが発見され、抜去したところ栄養チューブに亀裂が入っていた。

<事例2> 栄養チューブが閉塞したため、スタイレットを使って閉塞を解消しようとした際、スタイレットがチューブを穿孔しその結果、食道に損傷を与えてしまった。

上記のような栄養チューブ閉塞時のトラブルが発生しています。そこで安全な対応を行うために『安全使用のために注意するポイント』を掲載しています。参考にして安全な栄養チューブの管理を行いましょう。

安全使用のために注意するポイント

チューブ詰まりを解消するための操作時の注意事項

- ・容量の小さい注射器では、注入圧が高くなり、チューブの破損や断裂の可能性が高くなるため、容量が大きいサイズ（注入器のサイズは各社添付文書の推奨サイズを参照のこと）を使用する
- ・圧が強く押しにくい場合には、大きい注射器で適量の微温湯をゆっくり力をかけずにフラッシュする
- ・無理に押しつけて閉塞を解消しようとせずに、チューブを抜くことも検討する
- ・スタイレットやガイドワイヤはチューブを穿孔し食道や胃に損傷を与えるおそれがあるため、詰まりの解消に使用しないこと